

ひまけい

No.11

2012.10.15

☉ 議会だより

発行編集：日之影町議会報編集委員会



平成24年度 一般会計・特別会計補正予算	p2
平成23年度 施策執行に対する総括質疑	p3
平成23年度 決算に対する委員長報告・監査意見書	p4
条例改正	p4~5
一般質問 (3名)	p5~7
議員発議 (2件)	p7

平成24年度

一般会計補正予算 (第3号)

歳入歳出 (補正額) 260,359千円

歳入歳出補正後の額 4,683,866千円

9月
定例議会

歳入の主なもの

地方交付税 (普通交付税)	28,000千円
国庫支出金 (公共土木施設災害復旧費負担金等)	63,890千円
県支出金 (ふるさと砂防事業補助金等)	107,337千円
諸収入 (後期高齢者医療給付費精算金等)	6,817千円
町債 (土木施設災害復旧事業債等)	44,255千円

歳出の主なもの

総務費 (自治体クラウド移行事業等)	27,530千円
民生費 (認定こども園運営費補助金等)	1,534千円
農林水産業費 (農業体質強化基盤整備促進事業等)	34,758千円
商工費 (みやざきから東日本へ感謝を届ける市町村支援事業補助金等)	4,373千円
土木費 (ふるさと砂防事業等)	69,585千円
消防費 (常備化準備会負担金等)	4,804千円
災害復旧費 (現年発生土木災害復旧事業等)	112,375千円

第3回定例会は、9月7日に開会し、報告2件・同意2件・承認1件・議案14件・認定9件・発議2件を慎重審議し原案のとおり可決・承認した。
一般質問には、3名が登壇し、町長・教育長に質問し、9月21日に閉会した。

特別会計補正予算

会計名	歳入歳出補正額	補正後の額
国民健康保険事業特別会計	26,581千円	839,535千円
簡易水道事業特別会計	1,490千円	72,558千円
介護保険特別会計	4,038千円	649,853千円
後期高齢者医療特別会計	186千円	55,913千円

平成23年度決算 (一般会計並びに特別会計8件) は、原案どおり承認されました。

※ 各会計の決算の詳細は「広報ひのかげ」に掲載されます。

平成23年度

決算総括質疑

■ 総務文教常任委員会

行財政について

問 平成23年度の予算執行に当たっては、七つの重点施策を柱に自己財源比率12・4%の厳しい財政状況の中、収支の均衡・財政運営をどのように捉えて施策に反映し、住民の負託に応えたか。

町長 依存財源87・6%の本町の財政は、介護・老人保護費等の扶助費が今後ますます増大する事が予測され、厳しい財政運営は必至である。

平成23年度は、行財政事務調整会議を必要に応じ開催し、投資的事業の評価・調整を行いながら事務事業の優先順位を決めて取り組んだ。

また、国の交付金事業により町営住宅等の改修にも取り組んだ。更に本町の課題であったケーブルネットワーク等の事業も行い、住民のインフラ整備に努めた。

やさしい福祉のまちづくりについて

問 町民の健康管理について、受診率向上のため、特定検診とガン検診の同日受診や休日検診、幼児から高齢者に至る幅広い年代層の健康管理への取り組みは評価されるが、その成果は。

町長 各種のガン検診等、受診率の向上につとめて来たが、23年度は、延岡医師会の協力が得られ、受診率のアップにつながった。その結果、肺ガン3名、膀胱がん1名、子宮ガン1名が早期発見された。23年度の受診率は60%であり、県下でも上位に位置づけられる。

安全安心で利便性に富んだまちづくりについて

問 定住に向けた住宅団地整備の取り組み。進捗状況と定住自立圏構想に基づいた具体的な取り組みと成果は。

町長 住宅団地については、国道218号沿線に5箇所ほど調査したところ、桜木集落

の2箇所が適地であると判断し、地権者の同意も受け調査を始めた。

定住自立圏の協定については、平成22年度に延岡市と締結し、一部について、各課業務ごとに実践している。今後企業の誘致活動・医療・観光推進等、延岡市と一緒に取り組んで行きたい。

自治公民館関係について

問 公民館活動の活性化を促すために、補助金を上乘せした公民館と活動の成果は。

教育長 過去モデル公民館活動を推進し地域の活性化に取り組んで来たが、近年はそれぞれの公民館の自主性に任せ、活動に対する助成金を交付している。

今後は、近隣の盛んな公民館を招聘するなど、外からの刺激も必要と考察する。

教育行政について

問 基礎学力と人間関係づくりに努めたと報告がなされたが、それらの取り組みについての実態と成果・課題等を伺いたい。

教育長 公表された日之影町の小中学校の学力は、県北部ではトップであり、ここ数年間県内では上位の成績である。

また、スポーツ面でも中学校の成績は、県北部でも上位に入賞して活躍している。一方、地域の文化、歴史、町内の施設を活用した教育活動にも取り組んでいる。

■ 経済建設常任委員会

農林業の振興について

問 基幹産業である農林業の振興を図るため、中核農林家の育成等各種の施策を推進したと報告されたが、農林家の所得は向上したと認識されているか。

町長 本町の農業は、米・畜産・花卉・果樹・特用林産物を組み合わせた複合経営であるが、更に高品質の品目を高い技術で生産し、高く売る農業を目指した取り組みを推進している。

農林業は、その年の気象条件により、所得が倍になったり、3倍になったりはしない

が、所得向上のための助成、振興策は他の自治体に負けぬい取り組みをしている。

有害鳥獣対策について

問 鳥獣被害防止緊急対策事業により、金網の設置、電機柵、有害鳥獣捕獲員の配置等が行われたが、その成果と課題は。

町長 平成23年度は、駆除班74名、捕獲班4名で836頭を捕獲した。また、国の交付金事業により、金網を13キロほど整備した。

今後の課題は、祖母傾山国定公園の1平方キロ当たりの生息密度5頭に対し、41・2頭が生息していると言われており、国・県の抜本的な取り組みを求めていく。

地域振興について

問 交流人口の拡大や地域振興の共通の課題として、12地区協議会と連携を図りながら、全庁的に高い意識の元で取り組まれてきた成果は。

町長 森林セラピーと絡ませ

各地区に伝わるイベントや伝統芸能の保存・伝承、音楽祭の開催、景観の整備等計画的な取り組みが行われた。また、溪谷まつりには、都市部の学生と交流を行った。

水源の里振興について

問 水源の里振興計画を基本に、国・県の助成を受けて活用し、問題解決に向けて各種事業に取り組みられた成果と効果は。

町長 水源の里振興の基本方針として、四つの施策に取り組みできた。一つには、利便性の向上。二つには、交流促進による所得の向上。三つには、空き家・耕作放棄地の適切な対応。四つには、自然環境・地域資源の保存、伝統芸能や文化財の保存等である。これらの取り組みによって、失われつつあった神楽や踊りの復活が出来た。

平成23年度決算 審査特別委員会 委員長報告

飯 干 静 香

平成23年度も、国際的に経済の不安定要素が続く景気低迷の中、国・県ともに厳しい財政状況下で、七つの重点施策を基本に積極的に執行がなされた。

なかでも平成23年度に繰り越した国の「きめ細かな交付金」を最大限活用し、起債対象外の直面する課題事業を起債なしに、計画どおりに執行完了し、基金の積み増しも出来た事は、大いに評価する。毎年、報告する事柄だが、職員の更なる意識改革の下での職務遂行を強く望むものである。

今後、国としては、東日本大震災の復興財源確保はもとより、社会保障制度の安定化目的で、消費税増税法案の道筋が示されたが、少子高齢化・円高・ユーロ安と、日本を取り巻く不安定な経済情勢の

中では、国の財政状況は更に厳しくなることが推測できる。本町も、財政運営上福祉事業等の増大が各種事業の縮小をも余儀なくされかねない事態と成ってきている。職員一人一人、町民の厳しい現実と実態を十分に認識理解し、常に危機感を持ち、協働の意識を強く持った町づくりを推進される事を強く望むものである。

監査委員の審査結果 及び意見

平成23年度日之影町一般会計及び特別会計決算並びに関係書類等の審査にあたっては、関係諸帳簿等適正に処理されていることを確認。予算については、厳しい財政状況の中、施政方針に基づき効率よく執行されていることを確認。

本年度の地方交付税は、30億5,180万8千円（対前年度比2・1%減）、自主財源である町税は、2億9,916万1千円（対前年度比2・8%の増）となっており、

最小の経費で最大の効果を上げる行政運営に徹し、町民福祉の向上の為、職員の頑張りを目指す。

財産運営の計画性を実質収支状況から判断すると、実質収支比率が1・5%となっており、一般的には標準財政規模の3〜5%が望ましいとされている。自主財源比率も12・4%と低く財源の確保に苦勞している状況である。

財政構造の弾力性からすると経常収支比率は83・7%でやや高い数値。この数値が低いほど弾力性があり、福祉、建設事業等投資的経費に充当されるものである。

平成23年度は、財政調整基金の取り崩しもなく、逆に決算積立金が2億8,400万円できており、前年度に続き健全な財政運営ができたことは、十分評価できる。

今後、財政健全化法が制定されてから連結決算による数値が重視されるようになり、病院事業会計、国保事業、介護保険事業等の特別会計、指定管理者による施設運営及び

第三セクターによる事業の運営には、今まで以上に気を配り指導しなければならぬ。平成23年度収入未済額が2,100万円となっている。今後、効率よい徴収法の検討が必要である。

町単独補助金については、必要に応じた思い切った判断が必要。

教育委員会委員の任命について

押方 光徳氏（椎 谷）
橋本 和夫氏（竹の原）
任期は両氏とも平成28年9月30日まで

専決処分

宮水・戸川線の災害復旧に伴う測量設計の委託業務を早急に実施する必要があるため500万円の追加補正。

日之影町消防団条例の一部を改正する条例

消防組織法の改正に伴い引用関係条項の改正。

辺地に係る公共的施設の整備計画の変更

小原辺地、追川辺地、松の木辺地については町道舗装事業を、鹿川辺地については小型ポンプ更新事業を追加する。

宮崎県後期高齢者医療広域連合規約の変更

住民基本台帳法が改正され、外国人住民についても住基法の適用対象となったことから、規約を変更する。

日之影町道路線の廃止について

平成23年度繰越農業体質強化基盤整備促進事業により整備を実施するため一度全線を廃止するもの。

○二又集落(町道梁崎二又線接点)から中小屋(六峰街道)へ通ずる延長7,972.4mの路線。

○新町集落から柵木集落へ通ずる延長1,156mの路線。

日之影町道路線の認定について

平成23年度繰越農業体質強化基盤整備促進事業により認定。

○「二又中小屋」線の一部(150m)が整備されるため、それを除く7,822.4m。

平成24年度農業体質強化基盤整備促進事業により認定。
○「新町尾迫」線の一部(260m)が整備されるためそれを除く896m。

平成23年度日之影町国民健康保険病院事業会計未処分利益剰余金の処分について

地方公営企業法の改正に伴い、利益処分に伴う減債基金積立金については、議会の議決が必要となったため、議決を求め、承認。

一般質問

「本町の教育施策について」

飯干 静香



複式学級 (自習の様子)

「教育懇話会の進捗状況は」

問 昨年6月議会の中で、小学校統廃合については、教育懇話会をスタートさせ、子供達の将来を見据えながら、研究・協議をしながら推進していくとあったが、進捗状況は。

教育長

23年度は2回開催。1回目(7月)は5校の関係者が一堂に会して実施したが、各学校の状況が違い、意見が出しにくかったこともあり、2回目(2月)は学校毎に実施、地域の代表も出席されたことで多くの意見を聞く機会を得た。

24年度は、構成員等懇話会の持ち方を改善しながら、学校毎に年1回開催、必要に応じて全体会を開催する。

「近い将来、完全複式となる対象校の対策は」

問

平成29年には、宮水小74名・八戸小20名・高栗野小30名・日之影小36名、小学校合計160名、日之影中学校100名となる見込み。
宮水小を除く3校は完全複式の学校となるが指導と対応は。

教育長

今後も複式解消職員をもつて指導・対応していく。

「小学校統廃合を推進し、小中一貫校を図る考えは」

問 延岡市教委は小規模学校の複式学級を解消し、学力向上・社会の育成・スポーツの競技力の向上・地区の活性化を狙いとして、数年前から計画され、25年度から6校に統廃合し、小中一貫教育を4校で実施。

美郷町の南郷区と北郷区は、3年で複式学級を解消し、学校編成を行い、小中一貫教育を目指す報道されました。

複式解消職員を対応されて

複式学級が解消されたら短絡的に考えても、子供達には根本的な解決にはならない、耐震・給食センター等が完備されたことなどで子供たちが取り残されては不幸ではないが、過去に統廃合した要因は子供達のことを考えてのことだった、今一番喜んでいるのは子供達・保護者・町民の方々にです。

精長 統廃合を推進する考えは当分の間はない。また小中一貫校の導入も考えてない。

「教育行政について」

坂本 和雄

問 本町における教職員のコンプライアンス（法令遵守）への取り組みと実態を問う。

精長 県教育委員会は7月、各地区で校長を集めてコンプライアンスに関する研修

会を実施、市町村教育長連絡協議会も「公立学校コンプライアンス推進協議会」の構成委員として、全体的に法令遵守の取り組みに歩調を合わせ、緊張感を持って進めている。一方、各学校ではコンプライ

アンスリーダーとして、教頭職を充て教職員の実態を調査し、課題等について改善する方策を実践しており、調査等の結果については報告書を求め、教育委員会で報告書をもとに各学校の実態把握に努めている。

問 平成24年度における学力調査の結果と課題を問う。

精長 平成24年度に宮崎県が実施した学習状況調査の対象は、小学校5年生と中学2年生だったが、中部教育事務所が上位で北部教育事務所は厳しい結果となっている。しかし、事務所が統合される前の7つの教育事務所管内の比較では、西臼杵はトップの成績であり、中でも小学校は最上位、中学校もベスト5に入る結果である。

学年によって学力の上がり下がりはあるが、優秀な成績を維持している。

今後の課題は、低学年から

発達段階を考慮し、系統性を重視しながら共通認識をもつて、町内全校を指導したい。

問 大津市の「いじめ」問題に見る今日的課題と本町における教育委員会、学校の取り組みを問う。

精長 近年、友達関係の希薄化、携帯電話・パソコンの普及によりメール・ブログ等、目に見えない情報手段が急速に発展し、その実態を学校現場が把握できない状況になっっている事が、いじめ問題を深刻にしている要因の一つと考える。

また、いじめの深刻な学校においては、教職員と生徒、教職員と保護者の信頼関係が崩壊し、問題を解決できない状況に追い込んでいると考えられる。したがって、どの学校もいつ発生してもおかしくない危機感を持って、未然防止に取り組んでいる。

教育委員会でも本町5校のいじめ・不登校対策について資料を基に意見交換を行い、各学校の取り組みを理解し、また、校外での情報を交換したり、緊急性が有る場合は早急に学校に知らせ、対応、対策に活かす連携を確認している。



中学校花輪体操

「農林業の振興について」

大村直登

問 病害虫・雑草、鳥獣被害、気象災害、市場価格等、厳しい状況にある農林業の専業者数と平均的所得は。

また本町の目指すべき作付面積当たりの所得、その達成年次は設定されているのか。

町長

農家数は741戸、専業農家は172戸である。専業農家1戸当たりの販売額は約567万円、平均所得は約181万円になると考える。県設定の西臼杵の経営指針による農業所得は1反当たり水

稲1万2千円、キュウリ113万円、なす50万2千円、ラナンキュラス192万3千円、ホオズキ73万3千円、粟4万5千円、肉用牛1頭当たり8万3千円に沿った経営を関係機関連携で推進する。達成年次は概ね10年後、1戸当たりの年間所得420万円、主たる従事者一人当たり約330万円、年間労働時間1,900時間を目標としている。

問

国県の財政状況から今後の補助事業が厳しくな



実りの棚田

ることが予想される。今後、本町の農林業所得の向上についての方策。

町長

右肩上がりではなくなかなか厳しいが、各種作物畜産等の複合型経営による所得向上への取り組みを今年3月に県・JA等と論議し構想を策定した。

問

見た目ではなく中身の充実した経営実態が持続可能な農林業が目指すべきものと考え。賞与もなく退職金もない国民年金のみの個人事業者は厳しい経営をしており、今後は非、設定目標数値に沿った農林業の振興をしていただきたい。

議員発議 議員定数条例の改正

坂本和雄

今回の提案は、現行の議員定数10名を2名削減し、8名にする条例改正の提案であります。

本町議会は、平成17年2月に定数削減を行い、平成18年9月の第3回定例会では、議員の任期を繰り上げ失職、町長任期と統一した改革を行っております。

更に、平成21年9月から、行財政特別委員会では、定数問題を含む行財政改革に取り組んで参りました。

行財政改革については一定の成果は見る事が出来ましたが、更なる議員定数削減については、賛否両論・意見の一致を見るに至らず、平成22年第2回定例会において、議員発議による提案がなされましたが反対多数で否決されております。

申し上げるまでもなく、二元制の地方自治における本質的要素は住民自治にあると言われます。したがって、

その役割を担う議会、私たち議員に対する有権者の審判は大変厳しいものがございます。その顕著な事例が平成22年9月に行われた議員削減の直接請求でございます。有効署名数は1,269名でしたがこの数値は本町有権者数の3分の1を上回る数値でございました。

結果は、同年9月の第3回定例会に上程されましたが、反対多数で否決されました。しかし、本件につきましては、署名の重さを踏まえ、更に本町の中長期を展望した財政・人口の推移・町民の皆さんの厳しい昨今の環境等、諸般の情勢を踏まえながら今日に至るまで慎重審議を重ねて参りました。

審議の過程では、定数削減により議決機関としての機能低下・諸々の制約を懸念する意見等、対立する局面もございましたが、最終的には全議員がこの政治判断を重く受け止め、更に精進していくことで、平成24年7月26日開催された行財政改革特別委員会において、大筋の合意を得たので本会議に提案いたしました。

意見書採択

経済建設委員長

大村直登

本施策は「森林経営計画」を立てた森林所有者本人が、森林組合等の施業受託事業者が、植栽・保育・間伐事業を実施することにより補助金が交付される「森林環境保全直接支援事業」を平成24年度から導入しているが、今までの事業と大きく異なり零細森林所有者の多い条件不利地域においては、施業に困難を生じている。中でも間伐事業は搬出間伐を主体とし、路網整備や高性能林業機械が必要不可欠となり森林所有者個人では施業が極めて困難であり、ましてや近年の野生鳥獣被害の増加と深刻化の中、間伐事業での貴重な収益を失う森林所有者にとっては放置林のさらなる増加を招き、過疎化を助長し国土保全を担っている山村の崩壊へと繋がることから強く懸念される。そのため森林所有者本人でも施業が可能となる柔軟な施策の見直し措置を講じられることを強く要望する。

議会への要望

★徳富公民館

生活道改良についての要望

★

日之影町商工会

商工業の振興及び地域経済の活性化に関する要望

議会にご案内を頂き
有り難うございました。

- 大宮納涼花火大会
- 夏祭りひのかけ2012
- 八戸清流園夏祭り
- 青雲荘納涼祭
- 敬老祝賀会
- (大宮地区・清流園・青雲荘)
- 日之影中学校体育祭
- 鹿川ピック
- 町内各小学校運動会
- 深角団七まつり
- 大人神社(秋祭り)



保育園児も頑張りました。

議会のうごき

(平成24年7月～平成24年10月)

7月9日(月)	県道宇納間日之影線整備促進期成同盟会総会(美郷町)	7月9日(月)	会通常総会(高千穂)
10日(火)	郡議長会定例会(五ヶ瀬町)	10日(金)	西臼杵郡衛生組合監査日之影町花井園芸組合ホオズキ贈呈式
12日(木)	東九州自動車道・九州中央自動車道建設促進総決起大会(延岡)	12日(日)	大宮納涼花火大会
17日(火)	九州中央自動車道建設促進沿線議会総会・決起大会(御船町)	16日(木)	「夏祭りひのかけ2012」
18日(水)	平成23年度決算審査	19日(日)	公民館対抗ソフトボール大会
20日(金)	高速自動車国道建設促進宮崎県期成同盟会総会(宮崎)	20日(月)	宮崎県町村議会議長会決算審査(宮崎)
25日(水)	議会運営委員会正副委員長研修会(宮崎)	21日(火)	八戸清流園夏祭り
26日(木)	もくみ検討特別委員会・行財政改革特別委員会	22日(水)	知事とのふれあいフォーラム
29日(日)	日之影町消防操法大会	23日(木)	青雲荘納涼祭
8月1日(水)	県北部地域町村議会議長連絡協議会総会(川南町)	24日(金)	九州中央自動車道建設促進総地方大会(熊本)
2日(木)	地方行政問題協議会並びに正副議長研修会(宮崎)	25日(土)	宮崎県消防操法大会(宮崎)
3日(金)	熊本・阿蘇幹線道路整備促進期成会通常総会(菊池郡大津町)	27日(月)	主要地方道日之影宇目線整備促進期成同盟会総会(佐伯市)
5日(日)	西臼杵郡消防操法大会	28日(火)	親子方式による小学校給食開始式
6日(月)	総務文教常任委員会所管事務調査	29日(水)	監査委員協議会臨時総会・研修会(綾町)
7日(火)	九州中央自動車道建設促進沿線議会提言活動(福岡・東京)	31日(金)	商工会要望
8日(水)	財政健全化審査	9月3日(月)	県町村議会議長会役員・監事合同会(宮崎)
9日(木)	西臼杵郡畜産振興協議	4日(火)	議会運営委員会・全員協議会
		5日(水)	中国人殉難者慰霊祭
		7日(金)	平成24年第3回定例会(開会)
		7日(日)	西臼杵郡広域農道総会(高千穂町)
		11日(木)	町村議長会臨時総会
		12日(金)	のんのこ会総会
		13日(土)	第29回東九州自動車道建設促進大会(佐伯市)
		10月3日(水)	議会報編集委員会
		6日(土)	議会報編集委員会
		7日(日)	深角団七まつり
		10日(水)	大人神社・秋祭り
		11日(木)	第10回全国環境連全国大会(宮崎)
		26日(水)	青雲荘敬老祝賀会
		25日(火)	高年齢者スポーツ大会
		23日(日)	八戸清流園・寿久の里合同敬老祝賀会
		21日(金)	平成24年第3回定例会(閉会)
		27日(月)	議員協議会
		25日(火)	町内各小学校運動会
		23日(日)	八戸清流園・寿久の里合同敬老祝賀会
		21日(金)	平成24年第3回定例会(閉会)
		19日(水)	新町公民館敬老会
		17日(月)	新町公民館敬老会
		16日(日)	阿下公民館敬老会
		15日(土)	大宮地区自治公民館敬老会
		13日(木)	平成23年度決算審査特別委員会
		11日(火)	平成24年第3回定例会(総括質疑)
			議会運営委員会・全員協議会

編集後記

朝夕の類にあたる風が日増しに秋の気配を感じる頃となりました。今年は、6月から天候不順、異常気象等の長雨で水稲の作柄が気になりましたが、議会だよりが各家庭に届く頃には黄金色の稲穂を収穫しておられることでしょう。

一方、国の政治状況は「決められない政治」に象徴されて混乱そのものであり、その結果として国民が更に政治不振に繋がる事を理解しなくてはなりません。今必要なのは、党利党略や派閥争いでは無く、国家国民の為に自らを改革し、国民目線の政治を展開する事だと思えます。

町民の皆様方に於かれては、時節柄お身体をご自愛いただき、本町の最大イベントである「深谷まつり2012」を楽しんでいただきたいと思えます。

議長 甲斐徳仁